



「主よ、お話してください。しもべは聞いております。」¹

祭司エリがイスラエルのさばきづかさだったころ、サムエルという男の赤ちゃんが生まれました。サムエルとは、「神は聞いてくださった」という意味です。サムエルの母親ハンナには、長い間子供ができませんでした。子供をくださるようにとハンナが神様に祈ると、神様はその祈りに答えてくださったのです。この特別な贈り物もらった感謝のしるしに、ハンナは、サムエルが成長したら、祭司エリの元で神様に仕えさせることを約束したのです。

サムエルがエリと暮らすようになったある夜のこと、ねむっていると、サムエルを呼ぶ声がしました。サムエルは起き上がり、エリのねているところへ走って行って言いました。「はい、ここにおります。」サムエルは、エリが自分を呼んでいると思ったのです。けれども、エリは言いました。「わたしは呼んでいない。もどって、お休み。」

それからサムエルは、同じ声をさらに2度聞き、そのたびに年老いた祭司の元へ走って行きました。その時エリは、神様がサムエルを呼んでいるのだと気が付きます。エリはサムエルに、自分のベッドにもどって、今度その声を聞いたなら、どのように答えるかを教えました。次に神様がサムエルを呼ばれた時、サムエルは起き上がり、こう答えました。「主よ、お話してください。しもべは聞いております。」(新共同訳聖書、サムエル記上 3:10)

サムエルは、大人になると人々のさばきづかさとなり、イスラエルの大預言者の一人となります。

サムエル記上 第3章に このお話が書かれているので、読んでみましょう。



¹ 新共同訳聖書、サムエル記上 3:10